

2022卒・就活経験者にきいた「大学進学に関する調査」

2022年春に大学または大学院を卒業する学生に、大学選びの際に着目した点や、大学進学時のキャリア意識などを尋ね、入学後の学業への取り組み姿勢や、就職先企業への満足度との関連性を調べた。その結果、満足度の高い大学生活や就職先選びに結びつく要因が見えてきた。

これから大学選びを行う高校生にとっても示唆に富むデータが得られた。

目次

1 入学した大学について

- (1) 大学生活の満足度、大学入学前後のギャップ
- (2) もし大学受験をやり直せるとしたら

2 進学先検討時の意識と行動

- (1) 進学先検討時の情報収集
- (2) 進学先検討時のキャリア意識度
- (3) 進学先検討時の行動、高校での進路指導への満足状況

3 就職先満足度と大学生活との関連

- (1) 就職先企業の満足度、専攻分野との関連性
- (2) 大学満足度と就職先満足度の相関
- (3) 学業への取り組み姿勢とキャリア
- (4) 就職活動で有利だと思う学部系統

<参考データ> コロナ禍による大学満足度変化

調査概要

調査対象 : 2022年3月に卒業予定の大学4年生のうち就職先企業を決定した人
(理系は大学院修士課程2年生含む)

回答者数 : 822人 (文系男子232人、文系女子268人、理系男子223人、理系女子99人)

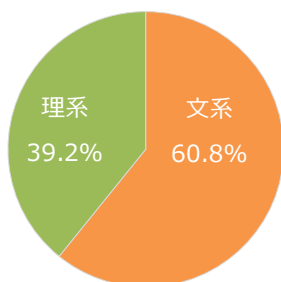
調査方法 : インターネット調査

調査期間 : 2021年12月15日～24日

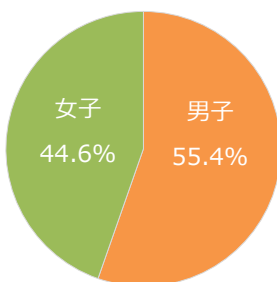
サンプリング : キャリタス就活2022 学生モニター

調査機関 : 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ/教育広報企画部

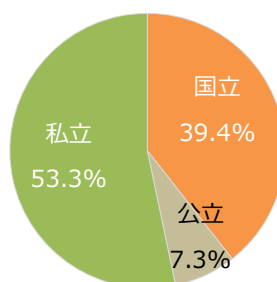
文理



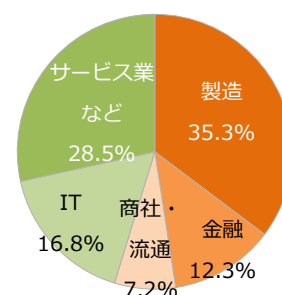
男女



大学設置区分



就職先企業の業種



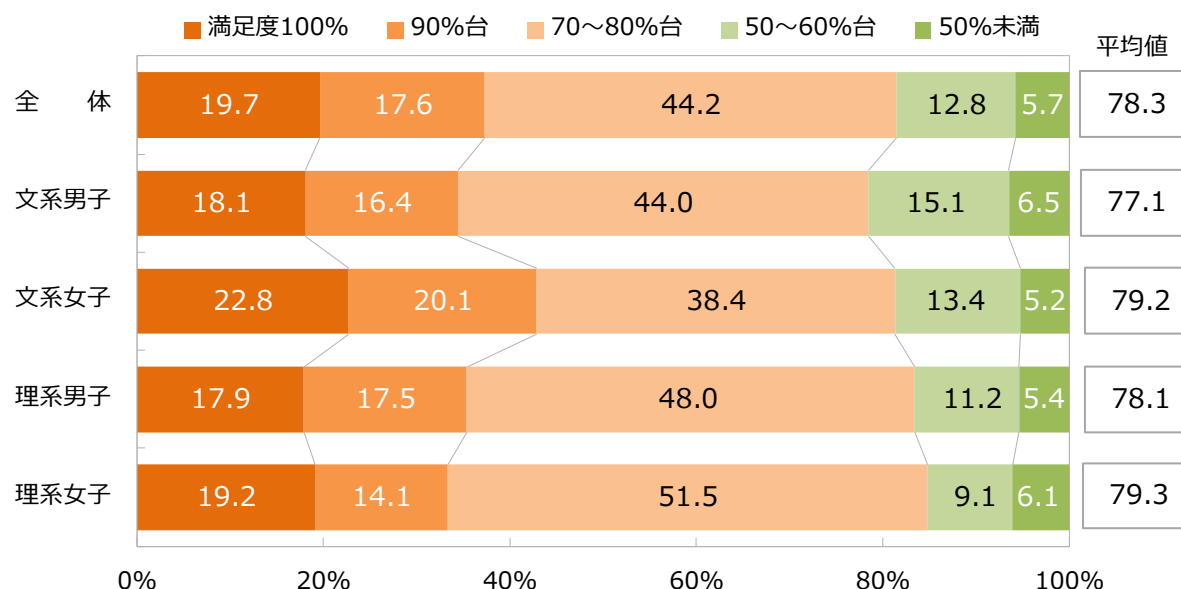
1 入学した大学について

(1) 大学生生活の満足度、大学入学前後のギャップ

■ 入学した大学・学部・学科の満足度（大学満足度）

入学した大学（学部、学科）にどのくらい満足しているかを尋ねたところ、全体の3割強が満足度を「90%以上」と回答した（計37.3%）。満足度の平均値は78.3%で、大学への満足度は総じて高い。

満足度の平均値に文理や男女での大きな差はないが、女子において比較的高く、文系女子79.2%、理系女子79.3%。



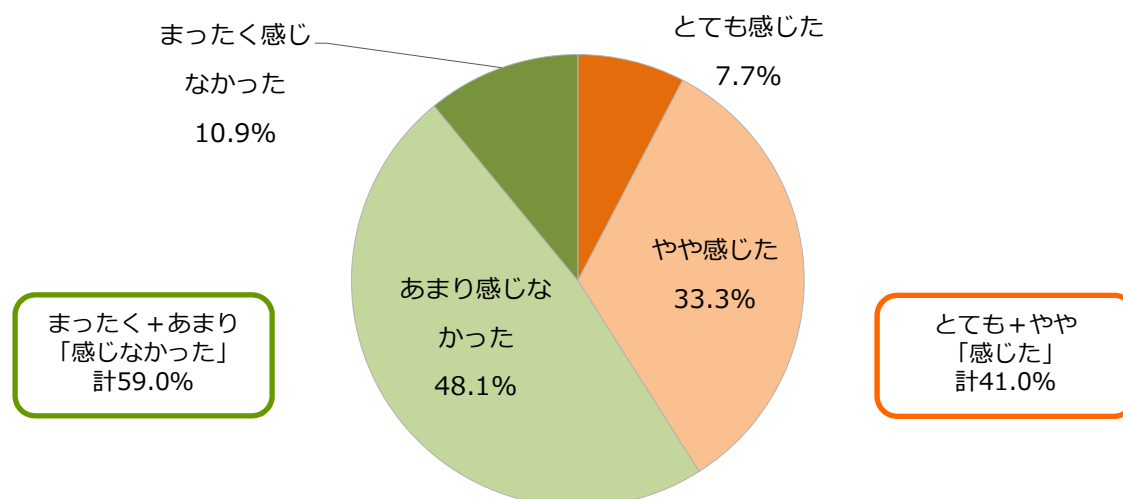
■ 入学後にギャップを感じたか

入学前にイメージしていた大学生生活と実際とで、どの程度ギャップを感じたかを尋ねた。

「とても感じた」は1割未満だが（7.7%）、「やや感じた」（33.3%）を合わせると、4割超の学生がなんらかのギャップを感じていた（計41.0%）。

寄せられたコメントからは、事前の情報収集不足がギャップに結びついているケースが多いことがうかがえる。

* 3ページにコメントを掲載



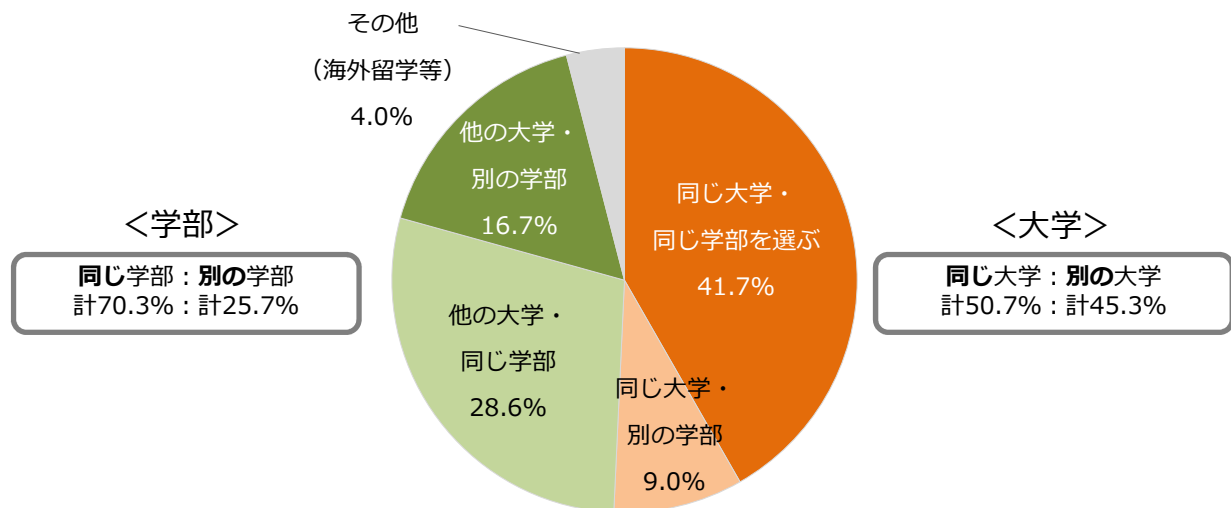
(2) もし大学受験をやり直せるとしたら

■ 大学受験をやり直せるとしたら、同じ大学・学部を選ぶか

最も回答が多かったのは「同じ大学・学部を選ぶと思う」で4割強が選んだ（41.7%）。次いで「他の大学の、同じ系統の学部を選ぶと思う」が28.6%。

学部によらず「同じ大学を選ぶ」を足し合わせると計50.7%で、「別の大学」は計45.3%。

これに対し、大学によらず「同じ学部を選ぶ」は計70.3%となり、大半の学生は学部系統の選択に満足していることがわかる。



【大学受験をやり直せるとしたら・・・】

「同じ大学の別の学部を選ぶと思う」

- 別の学部の内容にも興味があり、そちらはカリキュラム上あまり取ることができなかったため。 <文系男子>
- 理工学部所属だが、実際学ぶ中で、多分自分は文系向きだったと思うから。 <理系女子>

「他の大学の同じ系統の学部を選ぶと思う」

- やりたいことは変わらないと思うが、やはり大きな大学の方が研究設備や研究資金が潤沢だと思うから。 <理系男子>
- 今の専攻に不満はないが、もっと上のレベルの大学で学んでみたいから。 <文系女子>

「他の大学の別の系統の学部を選ぶと思う」

- 今の大学生活も楽しかったが、やり直せるなら他の地域で生活して、別のことを勉強してみたいから。 <文系女子>
- 入れるところではなく、やりたいところを重点において考えたい。 <文系男子>

【大学入学前後のギャップの具体的な内容】

「悪いギャップ」

- 自由に授業を選べると思っていたが、科目の単位の制約で自由とはいえなかった。 <文系男子>
- 入学する前に思っていたよりも、専門性が高すぎた。 <理系女子>
- キャリアサポートセンターの体制が思っていたほど手厚くなかった。 <文系女子>
- オープンキャンパスに行っていなかったので、都内でもこんな田舎があるのかと驚いた。 <文系男子>

「良いギャップ」

- 遊んでる人が多いかと思ったが、意外と学びの機会が多く、みんな賢くて勤勉だった。 <文系女子>
- 地方の大学だから活気がないとか、先生の授業が人気ないとか、マイナスイメージが強かったけれど、刺激を受ける人がたくさんいて、成長意欲がわいた。 <理系女子>

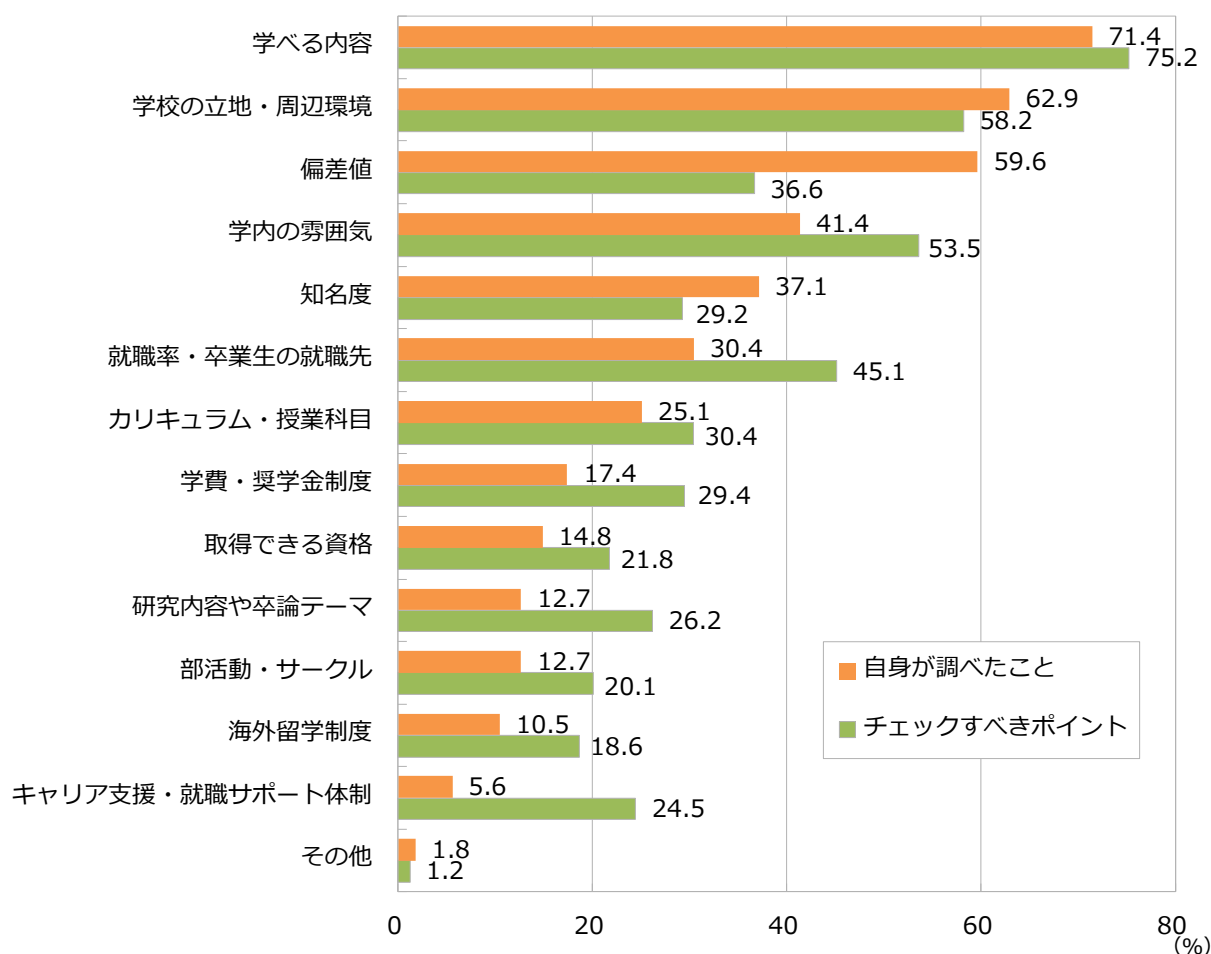
2 進学先検討時の意識と行動

(1) 進学先検討時の情報収集

■ 志望校検討の際に自身が調べたこと／志望校を選ぶ際にチェックすべきポイント

志望校検討の際に調べたことと、実際に大学生活を送った上で「チェックしておくといよい」と思ったことを、項目を揃えて尋ねた。上位2項目は共通しており、1位「学べる内容」、2位「学校の立地・周辺環境」。

全体的に、自身が実際に調べたことよりも、後にチェックしたほうがよいと思ったことの方がポイントが高いことから、受験前にもっと調べておけばよかったとの思いが透けて見える。「就職率・卒業生の就職先」「キャリア支援・就職サポート体制」など就職関連の情報についても差が大きく、先を見据えて選んだほうがよかったと考えていることがうかがえる。



【志望大学を検討する際に参考になった情報や調べ方】

- ・ 受験生向けのパンフレットを参考にした。学べる内容や奨学金、就職先、学部学科の詳細情報など様々な情報が過不足なく掲載されていて参考になった。 <文系男子>
- ・ 大学祭に行くと、自然と学内の立地や雰囲気を知れた。また、オープンキャンパスは自分が学びたい分野を学べるかということを知るのに役立った。 <文系女子>
- ・ 大学のホームページやパンフレットに記載されていた先輩の一日のスケジュールなどが、具体的に大学生活を想像できて特に参考になった。 <理系女子>
- ・ 大学の研究室のWebサイトで研究内容を調べた。 <理系男子>
- ・ 大学が公開している就職先情報や、取得可能資格をネットで検索した。さらに、その大学に通っている姉か兄がいる友人に話を聞いたりもした。 <文系女子>

(2) 進学先検討時のキャリア意識度

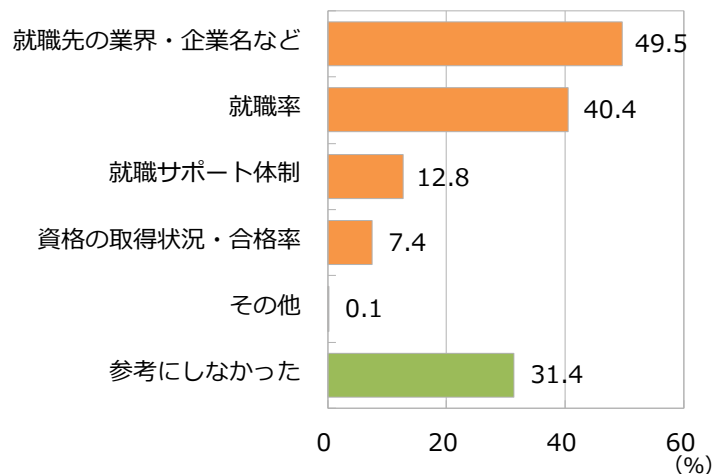
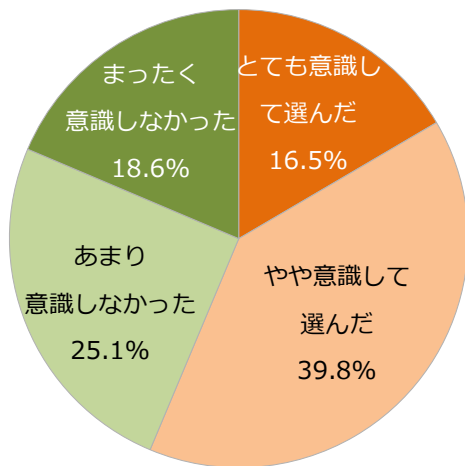
■ 進学先検討時のキャリア意識度（将来のキャリアや就職を意識して大学を選んだか）

将来のキャリアや就職を意識して大学を選んだかを尋ねると、「とても意識して選んだ」「やや意識して選んだ」の合計は56.3%。過半数が将来のキャリアや就職を意識して進学先選びを行ったと回答した。

大学の就職関連情報を「参考にしなかった」学生は約3割（31.4%）。残りの7割近くが就職関連情報を参考にしていた。参考にした情報で多いのは「就職先の業界・企業名など」（49.5%）と「就職率」（40.4%）。

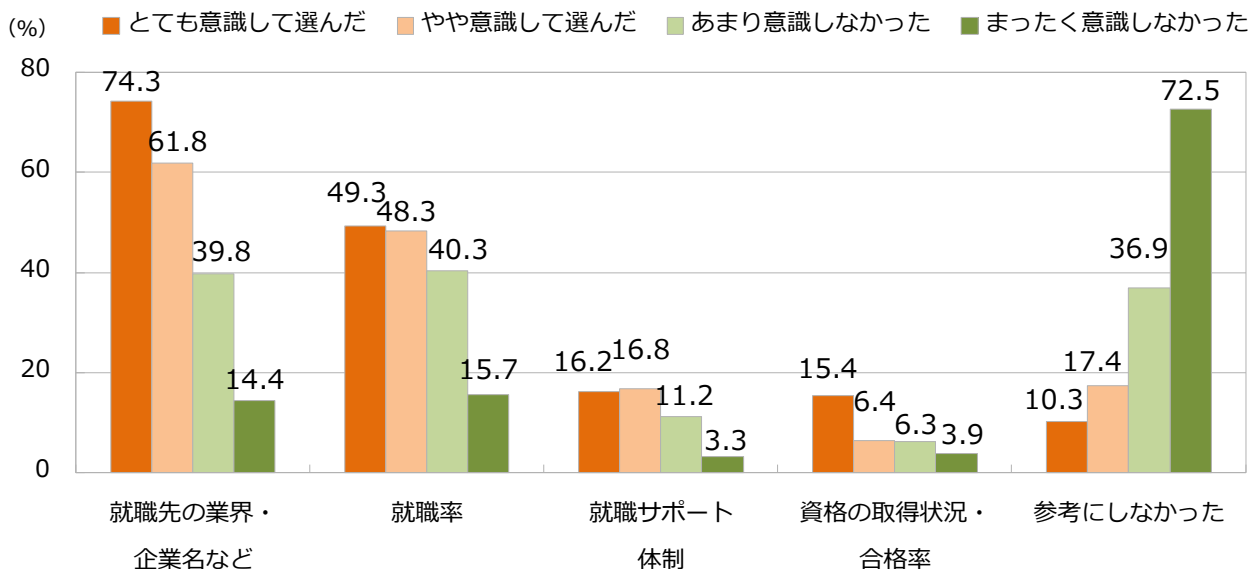
進学先検討時にキャリアを…

<志望大学検討にあたって参考にした「大学の就職関連情報」>



■ 進学先検討時のキャリア意識度 × 参考にした「大学の就職関連情報」

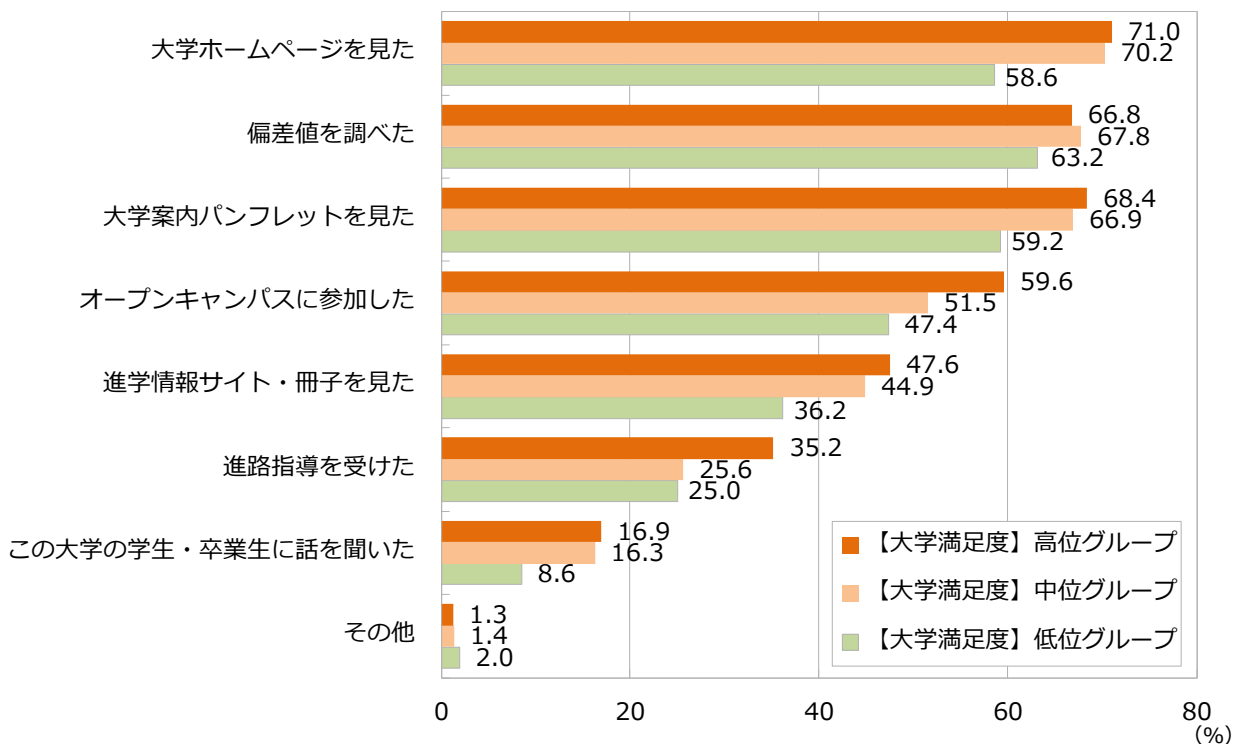
進学先検討時に将来のキャリアを意識していた学生と、そうでない学生とでは、大学の就職関連情報を参考にしたかどうか大きな差が見られる。特に「就職先の業界・企業名」については「とても意識して選んだ」と回答したグループは7割超（74.3%）で、大半が具体的な就職先まで参考にしていたが、将来のキャリアを「まったく意識しなかった」グループでは14.4%にとどまる。



(3) 進学先検討時の行動、高校での進路指導への満足状況

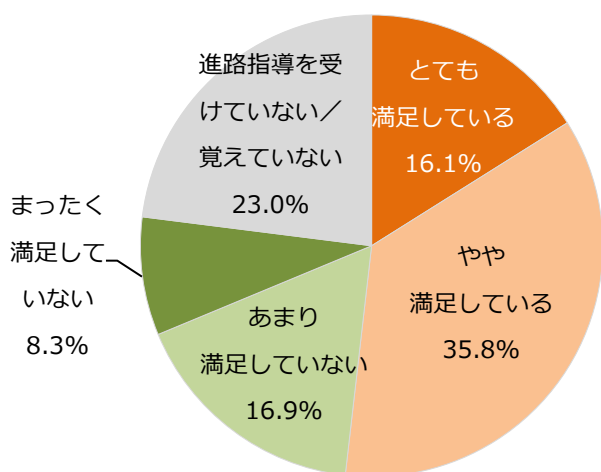
■ 大学満足度 × 入学した大学を進学先として検討する際にしたこと

大学への満足度別に、その大学を受験する前にとった行動を集計した。満足度高位グループは全体的に数値が高く、大学について様々な角度から調べていた様子が読み取れる。低位グループはすべての項目で他のグループを下回る。大学生生活の満足度を高めるためには、より多くの情報をしっかり収集することが有効であるようだ。



■ 高校での進路指導への満足状況

今振り返ってみて、高校での進路指導に満足しているかを尋ねると、「とても満足している」16.1%、「やや満足している」35.8%で、過半数が「満足」と回答した（計51.9%）。一方で、満足していない学生からは、大学卒業後の進路など、もっと先を見据えたアドバイスを望む声などが寄せられた。



【進路指導で欲しかったアドバイス】

- 高校時代は、大学合格＝ゴールと考えていたが、人生の単なる通過点に過ぎず、もっと大局的に見た進路指導やアドバイスが欲しかった。 <理系男子>
- 先生は私の考えを尊重してくれることがほとんどだったが、もう少し、社会に出てからのことや就職活動のことを考えてアドバイスしてほしい。 <文系女子>
- 各学部から将来どんな道に進む人が多いのかなどをもっと具体的に知りたかった。 <理系男子>
- 学歴ではなく本当に何がしたいのかを対話する時間が必要だったと思う。 <文系女子>
- 授業内容を調べた方がいいことをアドバイスして欲しかった。 <文系男子>

3 就職先満足度と大学生活との関連

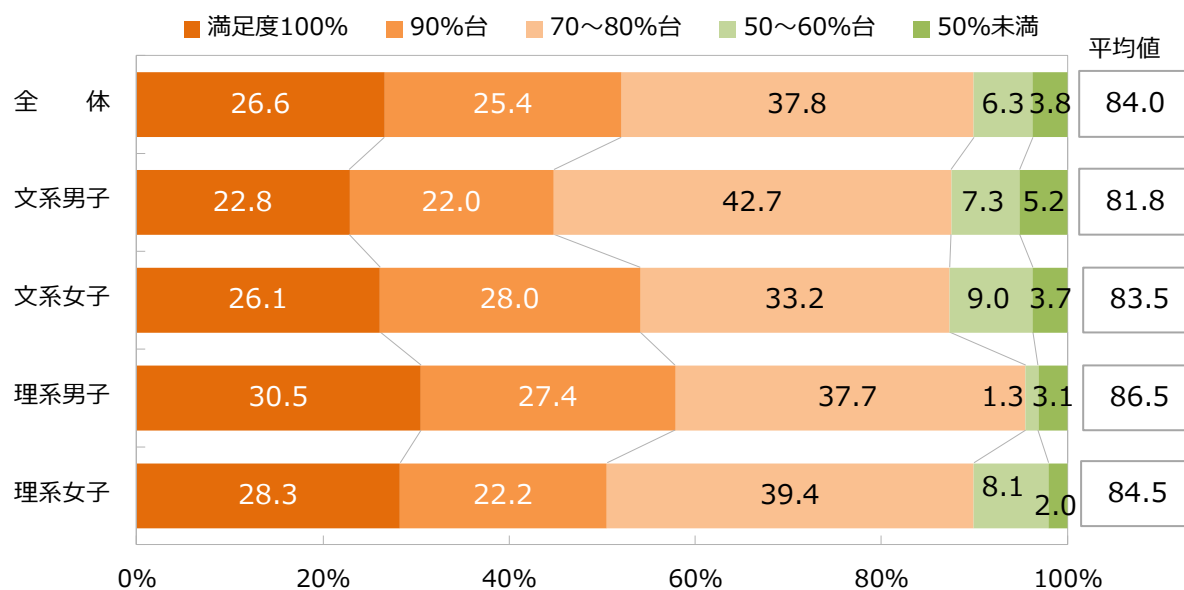
(1) 就職先企業の満足度、専攻分野との関連性

■ 入社予定企業の満足度（就職先満足度）

ここからは、就職先と大学生活の関連について検証したい。

卒業後に入社を予定している企業への満足度を尋ねると、全体の4人に1人以上が「100%」と回答し（26.6%）、「90%台」をあわせて過半数が90%以上と回答した（計52.0%）。就職先満足度の平均値は84.0%。大学満足度（2ページ）の78.3%よりさらに高い。

大学満足度は「実際に大学生活を送った上での満足度」であり、就職先満足度は「今後への期待」という側面はあるものの、就職先に対して多くが満足しているようだ。特に理系で満足度が高い。

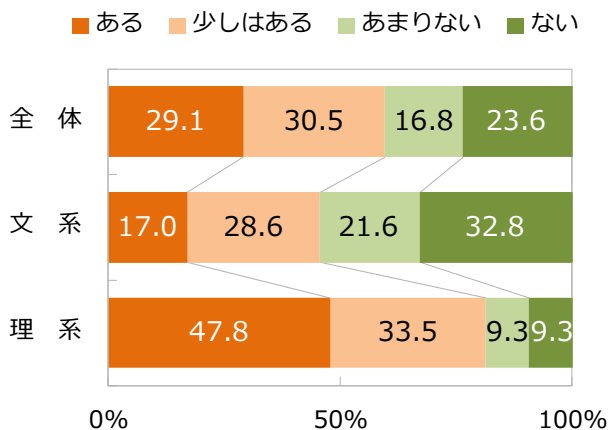


■ 就職先の業種・職種と大学での専攻分野の関連性

就職先の業種や職種が大学の専攻分野と「関連性がある」と回答したのは全体の29.1%。「少しはある」をあわせると、約6割になる（計59.6%）。

この指標は文理で差が大きく、理系は「関連性がある」が47.8%で、文系（17.0%）より30ポイント以上高い。理系は「少しはある」を合わせると8割を超え（計81.3%）、大学での学びを活かして就職先を選ぶ傾向が強いことがわかる。

就職先の業種・職種と専攻分野に関連性が...



【専攻分野との関連性について】

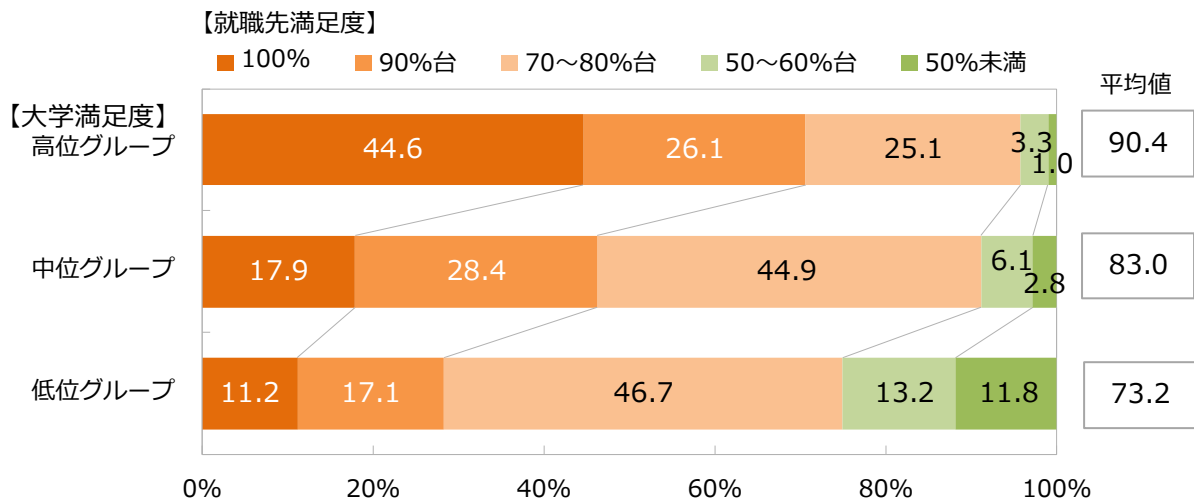
- ・ 経済学部だったが、金融関係の職に就く予定のため、経済の知識が活かせると思った。 <文系男子>
- ・ 大学では会計を専攻しており、経理職の職種別採用で内定をもらった。 <文系女子>
- ・ 大学で学んだ情報工学を活かせるIT企業に就職を決めた。 <理系男子>
- ・ 研究開発職に就くが、この専攻でなかったら行けなかったと思う。 <理系女子>
- ・ 教育・心理系を学んだので、人に関わる分野では多少は生かせるかもしれないと思っている。 <文系女子>

(2) 大学満足度と就職先満足度の相関

■大学満足度 × 就職先満足度

大学の満足度別に就職先への満足度を算出した。大学満足度が高いほど、就職先満足度も高い傾向が見られる。

特に、「大学満足度90%以上」と回答した高位グループでは、就職先満足度が平均90.4%と高水準で、大学生活の満足度と就職先の満足度は関連性が高いことがわかる。

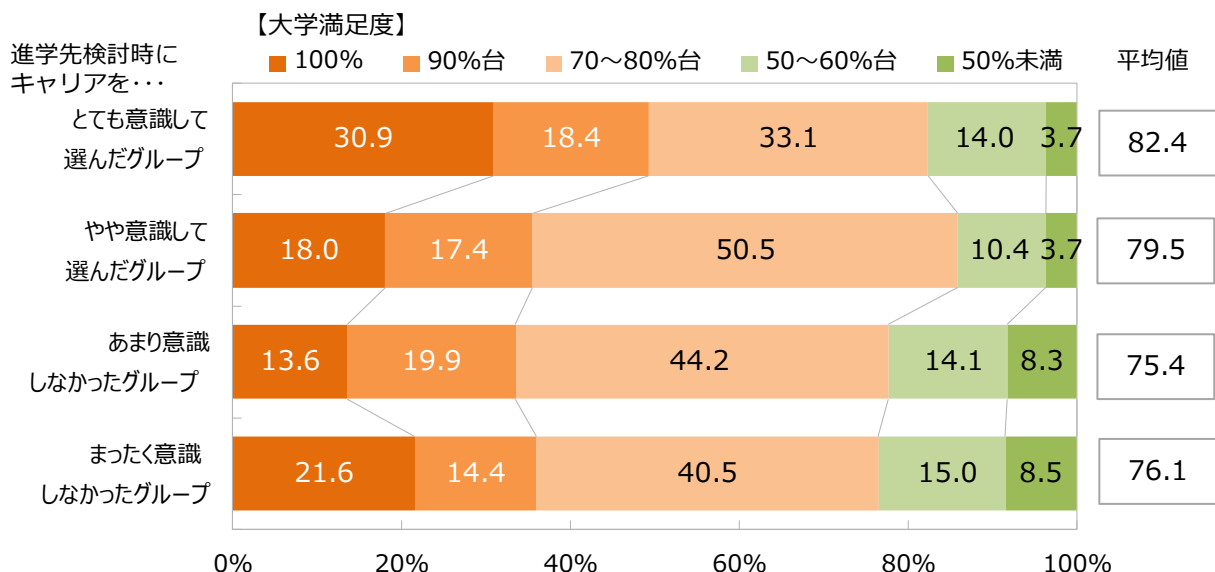


※「大学満足度」90%以上 = 高位グループ、70~90%未満 = 中位グループ、70%未満 = 低位グループ

■進学先検討時のキャリア意識 × 大学満足度

大学への満足度が高い学生はどのような学生だろうか。進学先を選ぶ際のキャリア意識度別に、大学満足度を算出してみた。将来のキャリアを「とても意識して選んだ」と回答したグループでは、大学満足度を「100%」と回答した学生が3割を超える（30.9%）。

「意識しなかった」グループにおいても、大学への満足度が高い学生は少なくないものの、70%未満と回答した学生が2割を超えている。進学先選びの際のキャリア意識度合いと、その後の大学生活への満足度には、一定の相関関係が認められる。

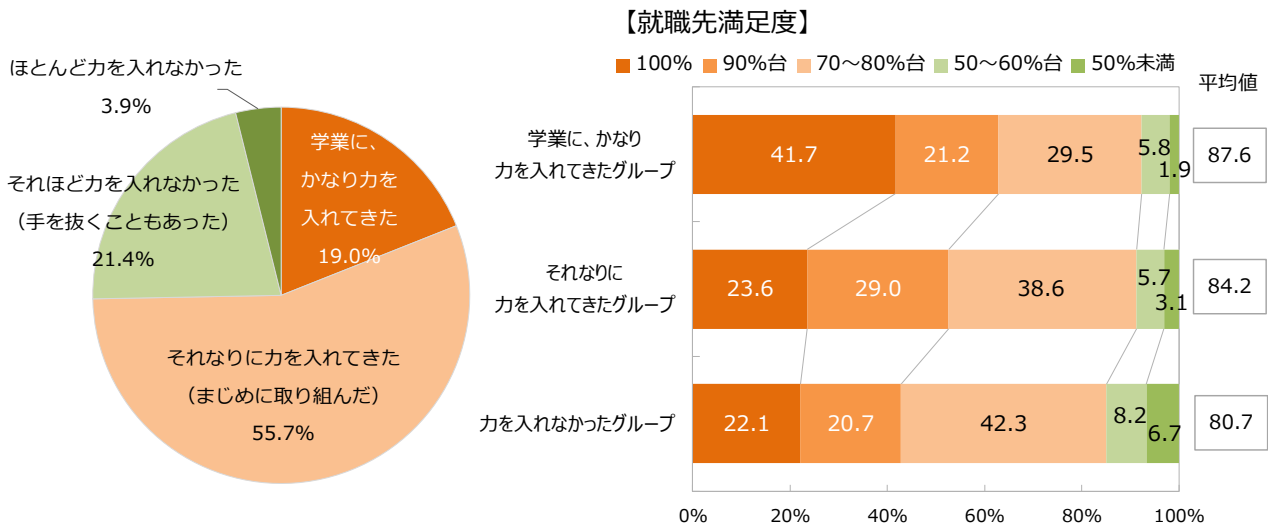


(3) 学業への取り組み姿勢とキャリア

■ 学業への取り組み姿勢 × 就職先満足度

大学進学後にどのくらい学業に力を入れてきたかを尋ねると、「それなりに力を入れてきた（まじめに取り組んだ）」が最も多く（55.7%）、「かなり力を入れてきた」は約2割（19.0%）。

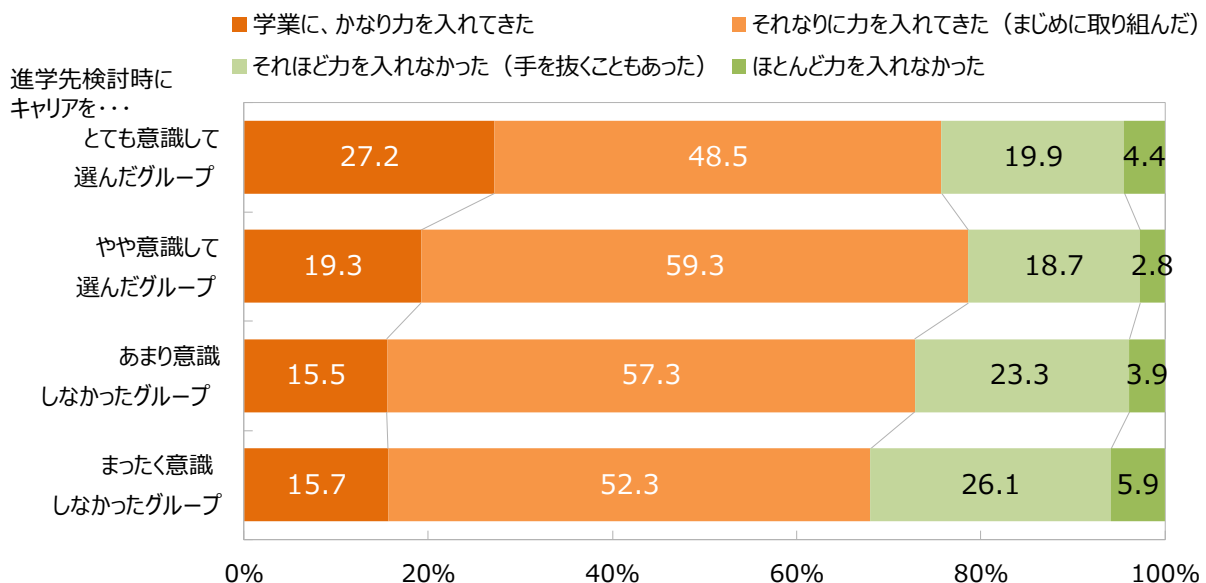
この学業への取り組み姿勢別に就職先満足度を見ると、「学業にかなり力を入れてきた」と回答したグループでは、4割以上（41.7%）が就職先満足度を「100%」と回答。平均も87.6%と高水準。学業への取り組み姿勢と就職先の満足度は相関が見られる。



■ 進学先検討時のキャリア意識 × 学業への取り組み姿勢

進学先検討時のキャリア意識との関係も調べてみた。将来のキャリアを「とても意識して選んだ」と回答したグループでは、入学後に学業に「かなり力を入れてきた」の割合が高い（27.2%）。

進学先検討時のキャリア意識と、入学後の学業への取り組み姿勢とは、一定の関連性が見られる。将来を意識して進路を選んだことで、進学が明確になり、学業への取り組み姿勢にもよい影響を及ぼしていることが読み取れる。



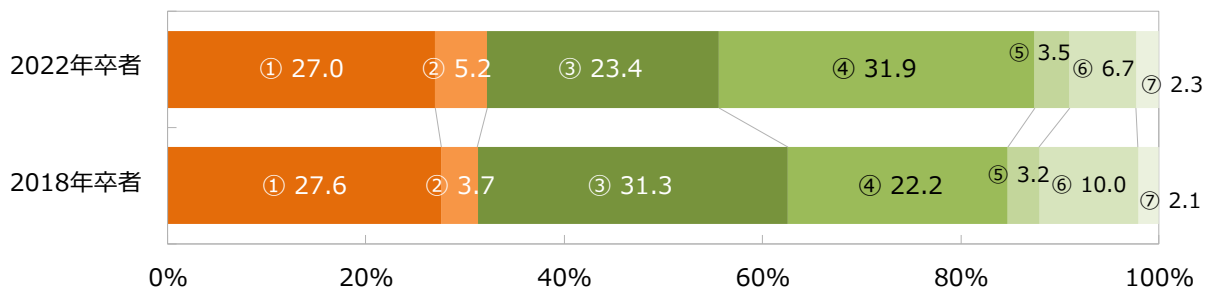
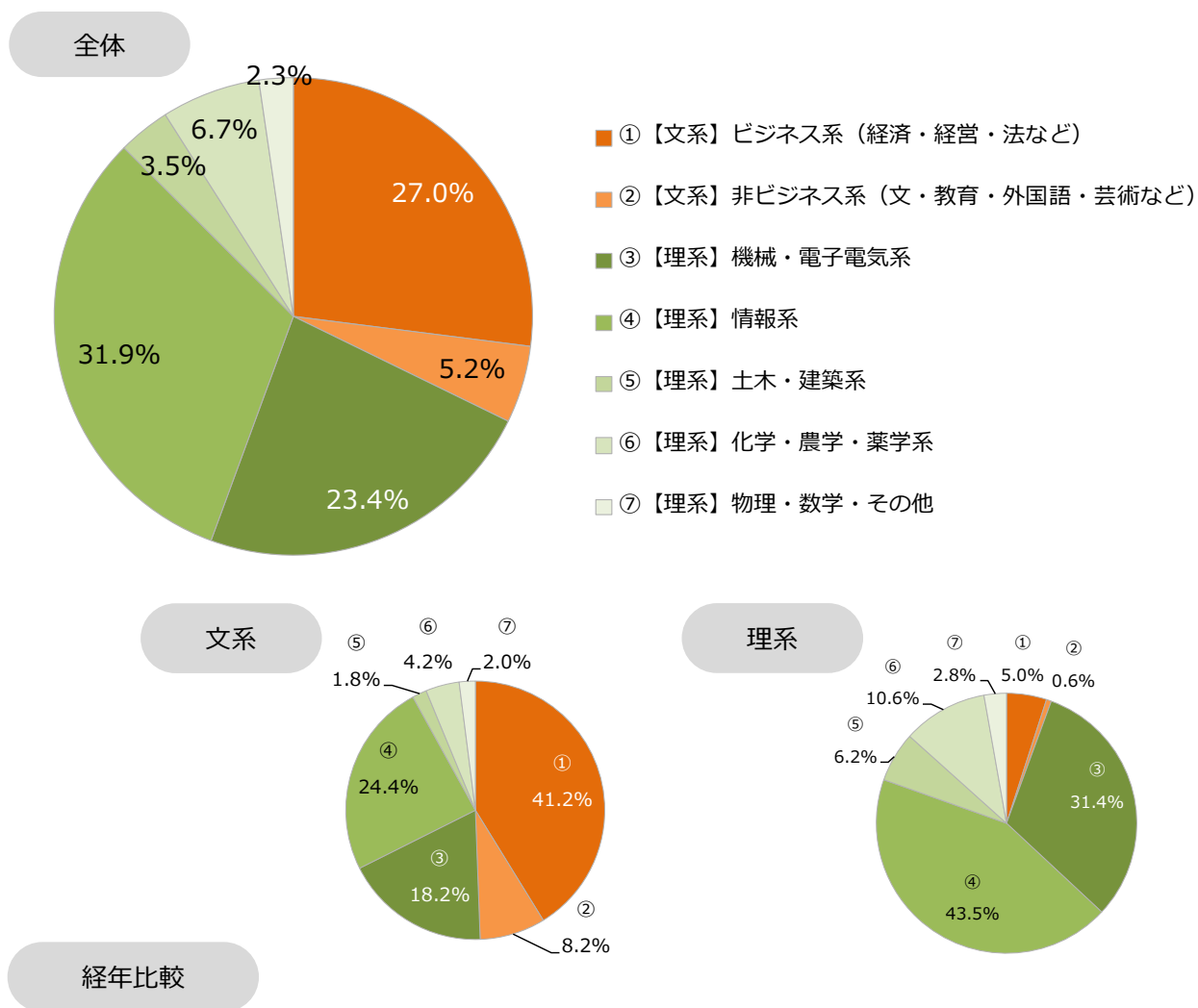
(4) 就職活動で有利だと思う学部系統

■就職活動で最も有利だと思う学部系統

学生が、自身の専攻にかかわらず、就職に有利だと思う学部系統の1位は「【理系】情報系」(31.9%)で、「【文系】ビジネス系(経済・経営・法など)」が続く(27.0%)。

文理別に見ると、文系学生が最も多く選んだのは「【文系】ビジネス系」(41.2%)だが、以降は【理系】の系統が続く。理系学生は「【理系】情報系」が圧倒的に多い(43.5%)。

なお、4年前の同調査の結果(2018年卒者)と比較すると、「【理系】情報系」が大きく増え(22.2%→31.9%)、人材ニーズの変化が反映されている。



※2018年卒=2017年12月調査(有効回答:761人)

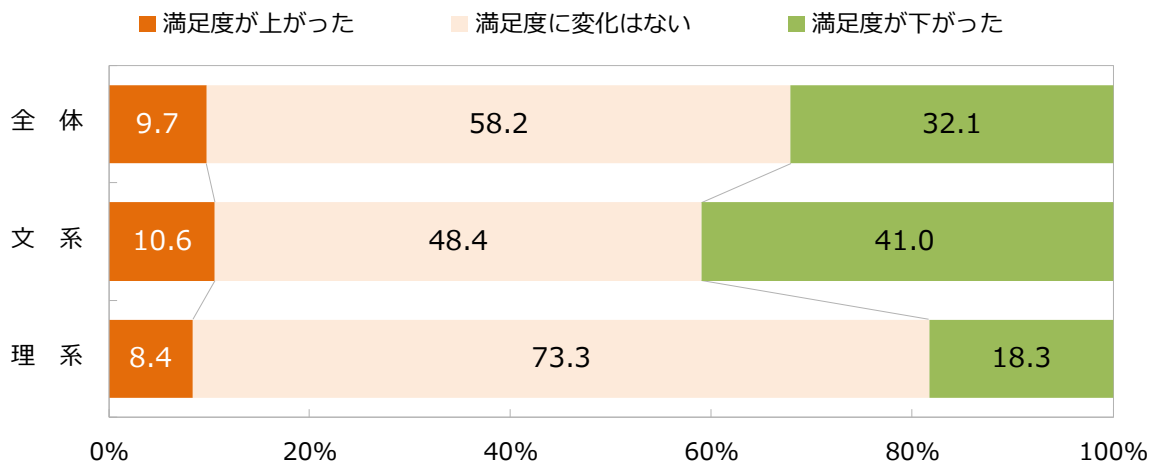
<参考データ>

■コロナ禍による大学満足度変化

この調査に回答した学生（2022年卒者）は、学生生活のうちの約2年間でコロナ禍の中で過ごしてきたが、大学への満足度に影響はあっただろうか。

コロナ禍による「変化はない」が6割近くを占めたが、一方で「満足度が下がった」という学生が3割を超えている（32.1%）。満足度が下がった理由としては、友人との交流機会の減少、課外活動の制限など、大学のオンライン化による影響を挙げる声が目立った。留学の中止を挙げた学生も見られた。

文系学生において満足度が下がった学生が多いが（41.0%）、研究室に通う理系学生に比べ登校頻度が少なくなったことなどが、要因として考えられる。



【大学生生活に満足／不満を感じる理由】

「満足度が高い学生」

- 学びたい学問が学べ、良い教授や友人に巡り会えたから。 <文系男子>
- 小さい大学なので人や雰囲気温かく、学べる範囲も広く、自由に好きなことをできるところ。 <文系女子>
- 第二志望だったが、学んでみると楽しくて性に合っていた。就職も専攻を活かして研究職を選んだ。 <理系女子>
- サークルを通して友人との交流に恵まれ、また研究では良い先生のもとで研究をできた。 <理系男子>
- 培ったノウハウを実践的に発揮する授業がたくさんあった。企業との共同プロジェクトが特によかった。 <文系男子>

「満足度が低い学生」

- 学びたかったこと、取りたかった資格を考えると、期待よりは全然低い。 <文系女子>
- 学科の留年率が非常に高く、思い描いていた大学生のイメージとは違ったため。 <理系女子>
- 関係する分野について深く学べるのではなく、広く浅く勉強するかたちだったため。 <理系男子>
- 教授によって授業の質がピンキリ、就職活動支援も手厚さは感じない。 <理系女子>

【コロナ禍で一番影響を受けたと感じる部分】

- 家で授業を受けることができたのはとても大きかった。学校まで遠く、2時間以上かかっていたので。 <理系男子>
- 院生は大学への立ち入りが許可されていたため、研究活動への影響はあまりなかった。授業は、オンデマンド形式が増えたため、実験スケジュールに合わせて受講できたのがよかった。 <理系女子>
- 対面授業の実施が困難になり、授業を家で1人で受けるため、面白いと思えることが少なくなった。 <文系男子>
- 教授と直接対話をする機会がなかなかとれず、交流がなく質問等しづらかったこと。 <文系女子>
- 海外に行きたくて学ぶカリキュラムができなくなり、オンラインに変わってしまった。 <理系女子>
- サークル活動がまったくできなかった。自分は演奏サークルなので、演奏できる場が減ってしまった。 <文系男子>

<コメント集>

【大学生活で楽しいと思うこと】

- 授業、バイト、サークル・部活などやれることが高校生の頃に比べると格段に多くなること。 <文系男子>
- サークルや部活での友達と遊ぶこと。留学でいろんな国籍の人やいろんな大学の人と出会えたこと。 <文系女子>
- 様々なバックグラウンドを持った人と出会えて、視野や価値観が広がった。 <理系女子>
- 自分の好きなように時間を使えること。休みの期間も長いので、旅行やボランティア、インターンなど学外の活動に時間を割くことができる。 <文系女子>
- 寮生活が楽しい。家族とは違うが友達よりも深い関係で、大学の同期というわけでもない。そんな独特な関係の人達との生活が楽しい。 <理系男子>
- 部活動。監督などがいない分、自分達で好きなように主体的に活動ができ、最後の青春であった。 <文系男子>
- 研究活動。つらくもあるが、やりがいもある。 <理系男子>

【大学生活で楽しくない、嫌だと思うこと】

- 複数の授業のレポートの提出時期が被ったときに泣きそうになる。 <文系男子>
- オンラインになって1年間通学できなかったこと。 <文系女子>
- 研究活動の中で、なかなか思うように結果が出ないとき。 <理系男子>
- コロナ禍で卒論や就活が大変で、周りの状況が見えづらい点、相談相手と気軽に会えない点が苦しかった。 <文系女子>
- 単位取得の基準が不明確なものが多く、授業全般を通して不安が多かったこと。 <理系女子>
- 通学時間が長かったことが負担だった。 <文系女子>

【大学で身に付けると、就活や社会人生活で活かせると思うこと】

- 様々な人とうまくコミュニケーションをとり、関わる力。 <文系女子>
- 自ら課題を設定して、一定の解や仮説にまでたどり着くための手順。卒業論文やレポートの作成などを通して身に付けることができると思う。 <文系男子>
- 周りの人とひとつのものを作り上げる時に、自分の役割をしっかりと持って活動できる力。 <文系女子>
- 行動的になること。就職活動は特に自分から動かないとまったく進まない。 <理系女子>
- より専門的で、即戦力になると思われるような知識。 <理系男子>
- 大人と関わる機会を作り、話し方やマナーを身につける。色々なものにアンテナを張る習慣。 <文系男子>
- とにかく色々な人と出会って、話して、その人たちと意見交換して、自分以外の意見を知ること。 <理系女子>
- 学業をきちんとこなした上で、自分が本当に大切にしたいことは何かを、学業の外側で自身の体験に基づいて発見すること。 <理系男子>

【高校生へのアドバイス（進路選びについて）】

- 大学生活は自由度も増え、学びたいことが目一杯学べる時間が増えます。シラバスや授業科目を見ると、イメージがわいて、受験勉強にもやる気が出たのでおすすめです。 <文系女子>
- コロナで大変なことがたくさんあるけれど、大学に入ることを目標にするのではなく、その大学に入って何をしたいか、あるいは大学を卒業して何をを目指すかを見つけてほしいと思います。たくさん自分なりに調べることが大事です。 <文系男子>
- ネットだけではなく、直接大学に行ってみるのが1番です。 <文系女子>
- 大学は通過点なので、目先の利益ではなく社会人になったときどんなところで働きたいかや、どんな仲間がほしいかを考えるとよいと思います。 <文系男子>
- 理系の場合、志望学部の研究室について調べた方がいい。先輩に話を聞けるとベスト。 <理系男子>
- 最初から決めつけるのではなく、進路の選択肢は無限にあることを常に忘れないでほしい。 <理系女子>
- 最後は自分で決断することが大事だと思う。 <理系男子>